

経営比較分析表（平成29年度決算）

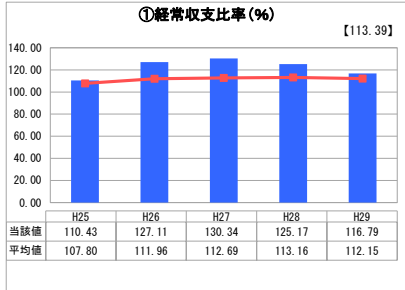
岡山県 総社市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	75.43	95.49	2.700	

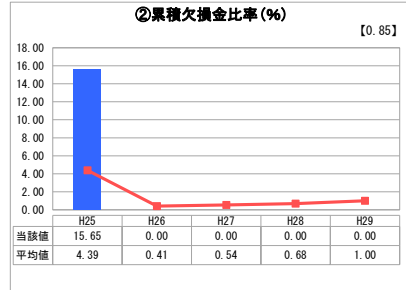
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
68,586	211.90	323.67
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
65,449	113.85	574.87

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

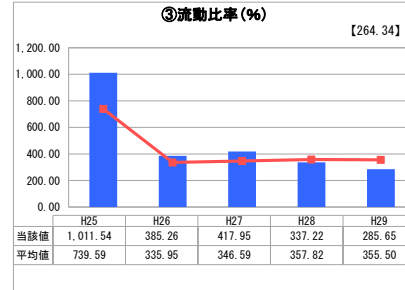
1. 経営の健全性・効率性



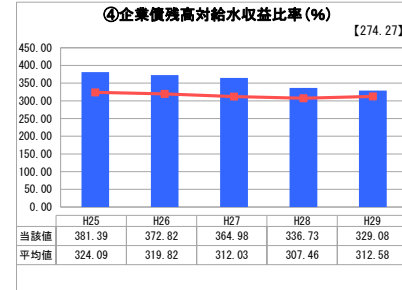
「経常損益」



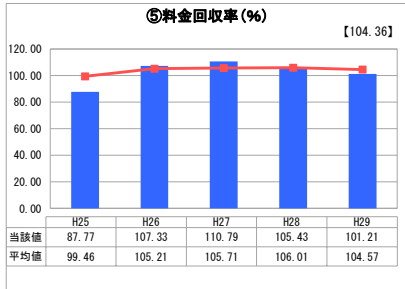
「累積欠損」



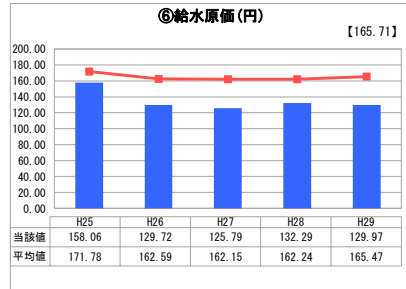
「支払能力」



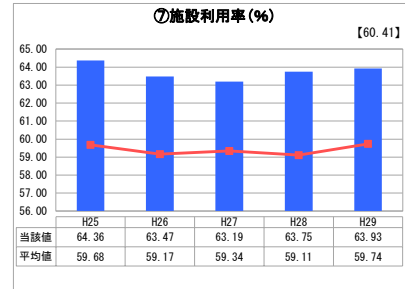
「債務残高」



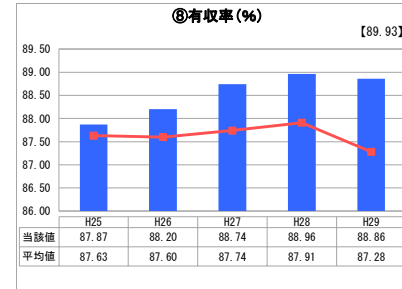
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

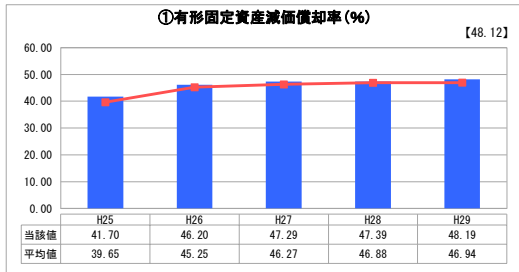


「施設の効率性」

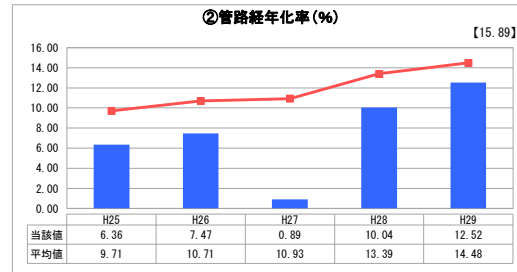


「供給した配水量の効率性」

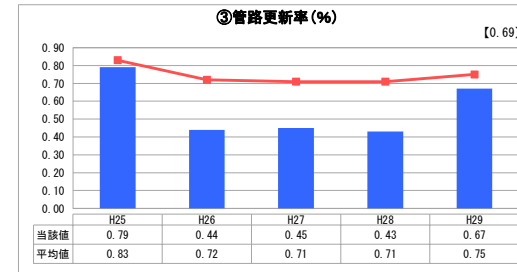
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成29年度から上水道と簡易水道を統合しており、「②累積欠損比率」や「⑤料金回収率」などの一部指標において類似団体や全国平均より低い結果となっておりますが、現在のところ経営の健全性や効率性は確保されているものといえます。しかしながら、「④企業債残高対給水収益比率」は類似団体や全国平均よりもかなり高いため、企業債残高の抑制に努めていく必要があります。なお、平成26年度で一部指標が大きく変動していますが、これは会計基準の変更に伴うものであり、経営状況の変化に伴うものではありません。

2. 老朽化の状況について

「②管路経年化率」が年々高くなっているため、より積極的な老朽管路更新に取り組んでいく必要があります。また、管路以外の老朽化も進んでいることから、管路以外の有形固定資産の更新についても計画的に取り組んでいく必要があります。

※②管路経年化率のうち、H27の当該値「0.89」とあるのは「8.30」が正しい。

全体総括

今後、必要な更新投資を行うと、徐々に経営状況が悪化していくと予測されます。現在の水道システムが給水区域を順次拡張していったために非効率な水道システムとなっていることから、水道施設の統廃合を行い、更新投資の抑制に努めていく必要があります。また、従来にはなかった耐震性能の確保を求められるなど、投資のあり方も変化していることから、必要に応じて水道料金の見直しを検討する必要があります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。